

# 郷土出版

今2.7.8  
サキカケ

## 詩集「緑の帆船」

鈴木修一

秋田市在住の鈴木修一さん(59)による初の詩集。さきがけ詩壇や詩誌「詩民族」に発表した作品を中心に、90編を収録した。

表題作「緑の帆船」は、作者が34歳の高校教師時代の作品。未来へ羽ばたこうとする生徒たちの姿に、青春の日々への憧憬を重ね、「夏を迎えようとする今／樹々は緑の帆を張って／春の予感を鼓吹している／われらこそ／大空をわたりゆく帆船の群である」と、「とうとう」。

「誓いの日」と題した一篇は次女の結婚が題材。父親としての幸福と寂しさを「森の中の泉のように／心ゆたかに取り残されて」と表現した。

鈴木さんは県立視覚支援学校長を経て、現在は県生涯学習センター所長。20代半ばで俳句を始め、俳誌「海程」を主宰していた金子兜太に師事。1992年に海程新人賞を受賞した。

詩は30歳を過ぎてから書くようになり、これまでさきがけ詩壇で4度推薦作家に選ばれている。

本詩集の各章冒頭には自作の俳句計19句を載せた。詩壇選者の駒木田鶴子さんは序文で「育てるまなざしとしなやかな感性を持った詩人が、俳句と詩の融合を試みた『愛』にあふれる詩集」と寄せている。

## 緑の帆船

鈴木修一詩集



育てるまなざしとしなやかな感性で紡ぐ

『愛・詩』に選られた一冊の集は、キラリと光るがら詩壇選者に選ばれる詩集が選出された。『愛』にあふれる詩集が選出された。(鈴木修一)

2200円、書肆えん80  
18・863・2681